

相模原技術センター

1. 概要

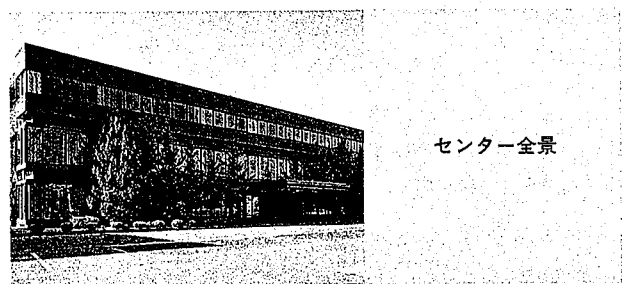
相模原技術センターは、鋼材に関する利用技術を推進するため、1965年2月大型構造物試験設備を有する相模原研究開発室として相模原市西橋本に設立されました。

その後、時代の変遷に即応して試験・実験設備、コンピュータシステム等の充実を図り、鉄構海洋事業部の各分野にわたる研究開発・エンジニアリング業務を中心に幅広い活動を行っています。

現在、開発50名、設計70名のスタッフと、協力会社からの派遣者等130名を合わせた約250名の技術者が活動しています。

沿革

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 1965・2 | 相模原市西橋本に相模原研究開発室設置 |
| 1967・3 | 隣接地に鉄構加工テストプラント設置 |
| 1969・7 | 相模原研究所と改称 |
| 1972・6 | 相模原技術センターと改称 |
| 1974・6 | エンジニアリング事業本部鉄構海洋事業部発足にともない同部に所属 |
| 1987・6 | 事業部組織改正にともない、各室、グループを中心とした機能別運営形態に改組 |



センター全景



玄関ホール

2. 特徴

(1)鉄構海洋事業部の技術的中枢機能

当センターは、本社地区、若松鉄構海洋センターとの緊密な連携のもと、鉄構海洋事業部の各分野にわたり、“設計”、“技術サービス”、“開発”とその技術的中枢機能としての役割を果たしています。

センターの役割のイメージ

| | 機能分類 | | | | | |
|--|------|----|------|----|-----------|-------|
| | 営業 | 計画 | 施工加工 | 設計 | 技術サービス | 開発・試験 |
| 海洋構造物 橋梁、ケーブル パイプライン エネルギー・水処理施設 土木・事業開発 | | | | | | |
| | 本社 | | | | 相模原技術センター | |
| | | | | | 社内他部門 | |
| | | | | | 社外 | |

(注) 海洋構造物、橋梁の加工は若松鉄構海洋センターで行っています。

(2)試験技術及び試験設備を提供

当センター保有の各種試験技術・設備を提供することにより、鉄海関連試験のみならず、社内他部門、さらには社外受託試験も多数行っています。

1992年度試験テーマ内訳

| | | |
|-----------------|---------------|------------|
| 鉄構海洋関連 (83%) | 製鉄部門 (11%) | 建築 (6%) |
|-----------------|---------------|------------|

() 実施比率

(3)立会、見学者が多数来所

施主、関係官公庁による開発、試験等の立会の他、一般見学者、学生等が多数来所しています。

来所状況(1992年度実績)

| | |
|---------------------|-----------------|
| 開発、試験等立会者 延べ626名 | 一般見学者 延べ156名 |
| 計：782名 | |

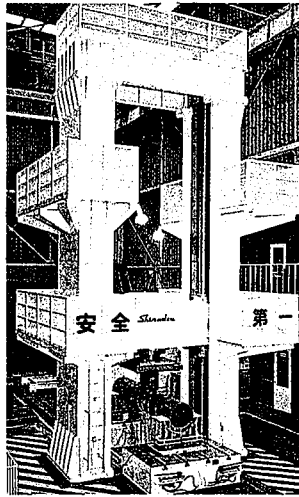
大学、施主、関係諸官公庁、共同研究先、協力会社、他

3. 試験・実験設備

鋼構造物の応用技術開発を円滑に推進するための試験・実験設備機器を各種保有しています。

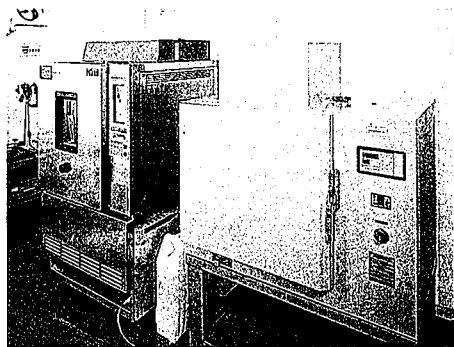
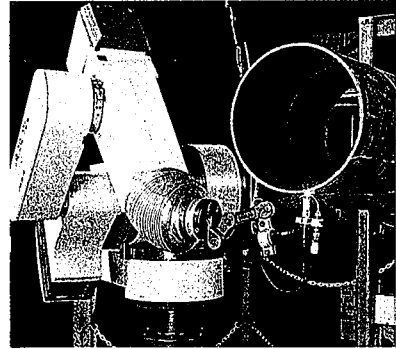
- 1,000トン構造物試験機
- 200トン万能試験機
- 200トン構造物試験機
- 振動実験装置
- 100トン構造物疲労試験機
- 大型造波水路
- 溶接ロボット
- 防食試験室

主要設備



1,000トン構造物試験機

溶接ロボット

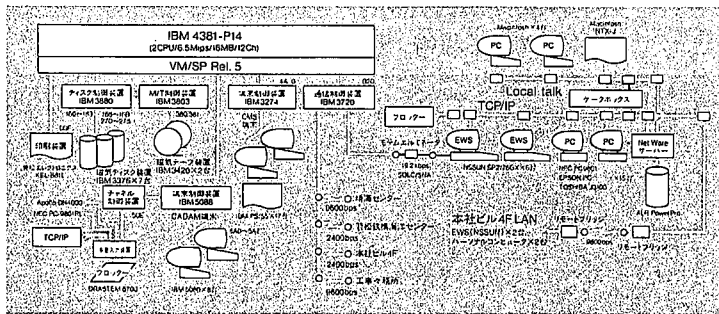


防食試験室

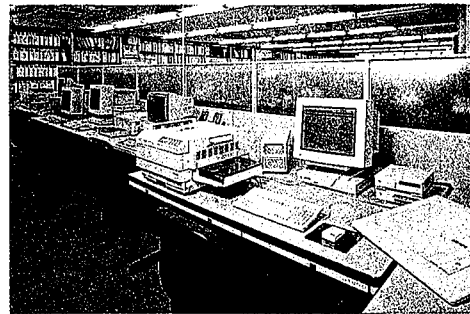
4. コンピュータシステム

IBM 4381-P14(16MB)及びCADAM, さらにEWSや多数のパーソナルコンピュータが設置されています。これら

はネットワークを通して利用されており, 処理のスピードアップとあいまって, 設計業務の合理化ならびに研究開発の能率向上に役立っています。



相模原技術センターコンピュータシステム構成図



EWS, パーソナルコンピュータ

5. 資料室

技術図書約1万冊, 雑誌240種を保有し, JOIS, DIALOG等による文献・情報検索も行っています。



資料室